

### 3. 浸出水調整槽構造計算書

#### 【 目 次 】

§1 基本条件の設定	5.1.4.3- 1
§2 構造計算の条件	5.1.4.3- 12
§3 調整槽の部材設計	5.1.4.3- 17
1 設計条件	5.1.4.3- 17
2 モデル図	5.1.4.3- 17
3 荷重の計算	5.1.4.3- 18
4 短辺方向の設計	5.1.4.3- 24
5 長辺方向の設計	5.1.4.3- 43
6 安定検討	5.1.4.3- 71
7 配筋要領	5.1.4.3- 85
§4 電算アウトプット	5.1.4.3- 88
1 調整槽 短辺方向断面力解析	5.1.4.3- 88
2 調整槽 長辺方向断面力解析	5.1.4.3-106

#### §1 基本条件の設定

##### 1. はじめに

本計算書は、奥山の杜クリーンセンター施設内浸出水調整槽について設計するものである。

##### 2. 地質断面の想定

本計画の調整槽は、ボーリング BRP-1～BRP-4 の調査資料より決定する。

次項に地質調査結果を示す。

これによると、N 値が 50 以上の層上に計画できるものと考えられる。

部分的に基礎底面に弱層が出現しても、置換え工、浅層改良工法等で対応可能な場所であると考えられる。

よって、以下の設計は、基礎地盤を N 値 50 以上と想定して行うものとする。



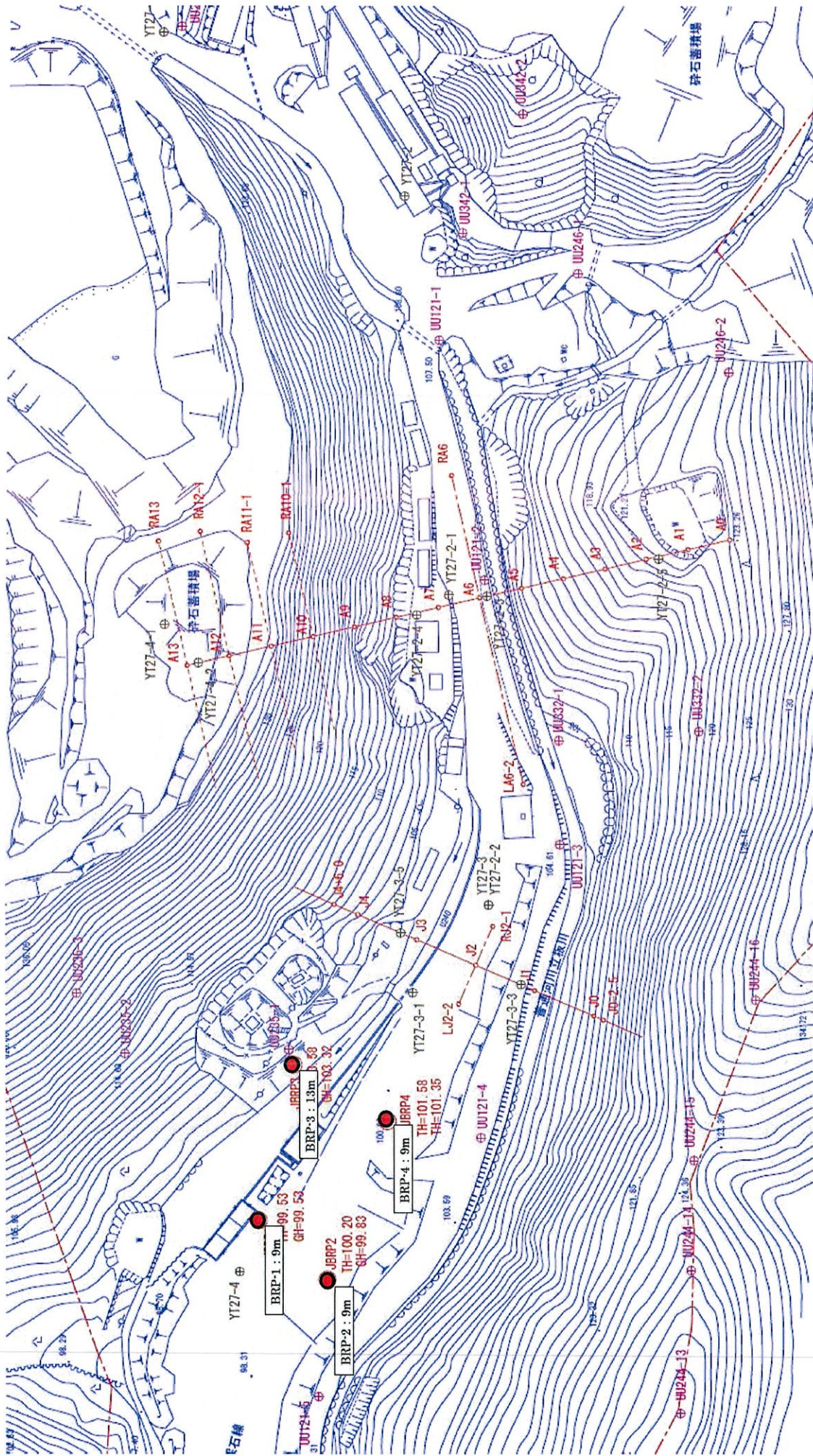


図 1.1 ボーリング位置図







# ボーリング柱状図

調査名 静岡県浜松市(ミダック)最終処分場の建築物における調査業務

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	BRP2		調査位置	静岡県浜松市北区引佐町奥山1397		北緯	
発注機関			調査期間	平成27年8月31日～27年9月9日		東経	
調査業者名	株式会社 環境地質 電話(044-221-1910)		主任技師	大野 博之		ボーリング責任者	関 拓充/土原 直樹
現代理人	石川 裕敏		鑑定者	石川 裕敏			
孔口標高	GH=99.83m	角	135°	方	270°	地盤勾配	使用機種
総掘進長	9.04m	度	0°	向	135°	北	試錘機 ECO-3V / 方ノ KR-SH
							エンジン ヤンマー NFA0-6
							ハンマー落下用具
							ポンプ
							半自動落下装置
							MKR22GP-V6

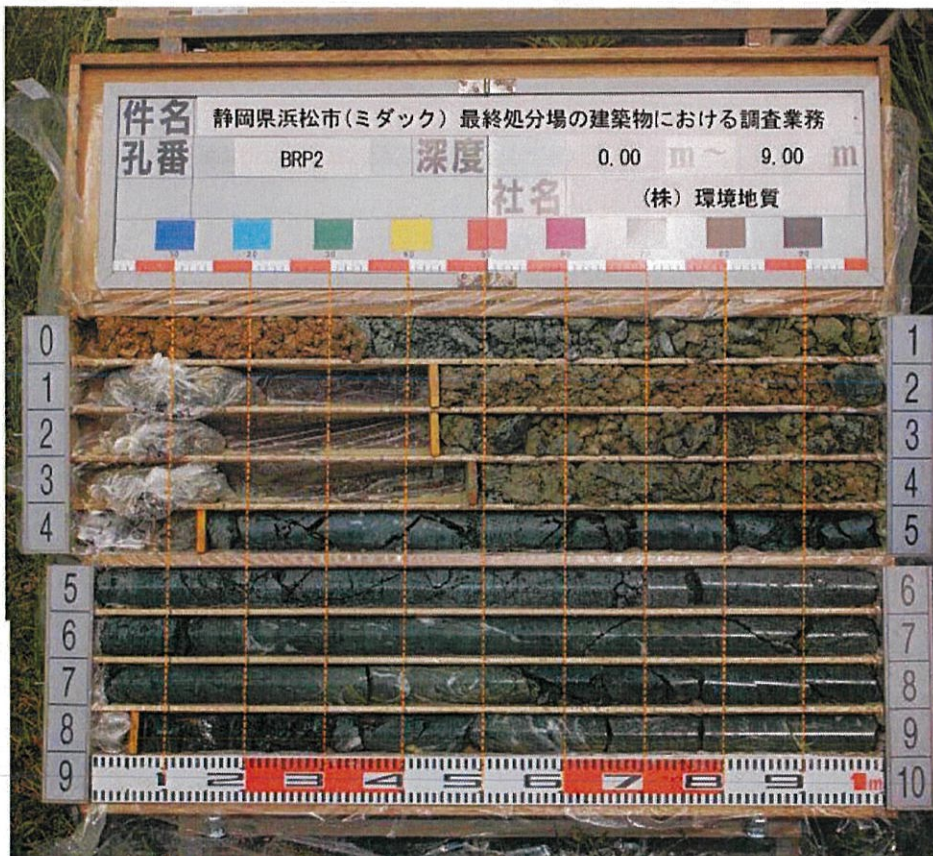
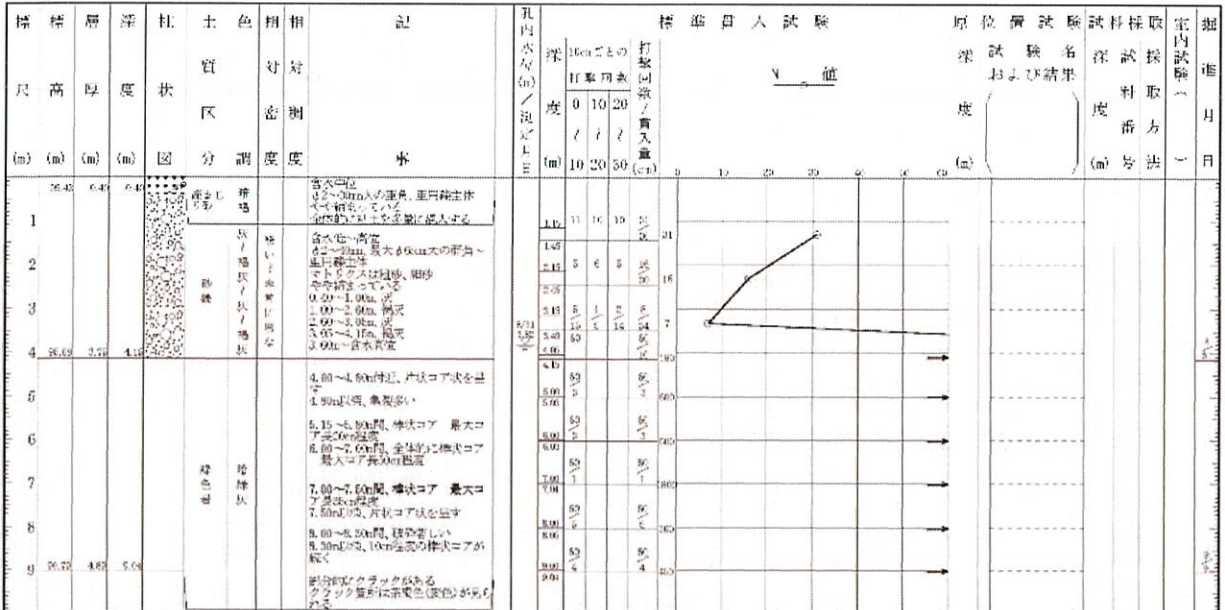


図 1.3 BRP-2 孔のボーリング柱状図及びコア写真



# ボーリング柱状図

調査名 静岡県浜松市(ミダック)最終処分場の建築物における調査業務

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	BRP3	調査位置	静岡県浜松市北区引佐町奥山1397	北緯	
発注機関		調査期間	平成27年9月2日 ~ 27年9月1日	東経	
調査者名	株式会社 環境地質 電話 (044) 221-1910	主任技師	大野 博之	ボーリング責任者	関 祐志 / 土屋 直樹
孔口標高	CH=103.22m 角 136° 二 90° 度 0°	方 270° 西 180° 東 90°	地盤勾配 北 平 東 90°	使用機種	ハンマー 釜下用具
総掘進長	13.64m	度	向	エンジン	マンマー NFAD-6
				ポンプ	MKW22CP V6

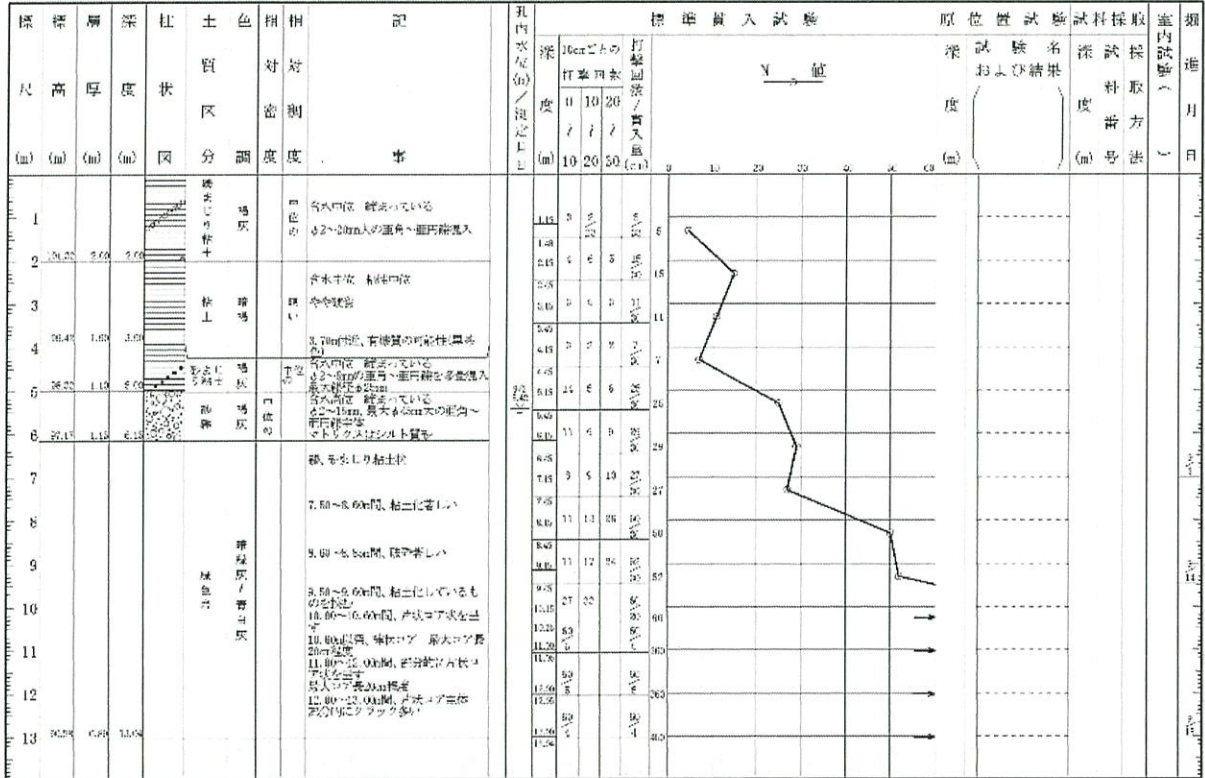


図 1.4 BRP-3 孔のボーリング柱状図及びコア写真



# ボーリング柱状図

調査名 静岡県浜松市(ミダック)最終処分場の建築物における調査業務

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	BRP4		調査位置	静岡県浜松市北区引佐町奥山1397			北緯
発注機関				調査期間	平成27年8月29日～27年9月8日		東経
調査業者名	株式会社 環境地質 電話(044-221-1910)		主任技師	大野 隆之		現代 代理人	石川 裕教
孔口標高	CH=101.35m	角	150°	方	270°	地盤勾配	使用機種
総掘進長	9.23m	度	90°	向	北	試錘機	ECD-3V / カノ KR-SH
						ハンマー 錘下用具	半自動落下装置
						エンジン	ヤマハ NFAD 6
						ポンプ	MKW22GP V6

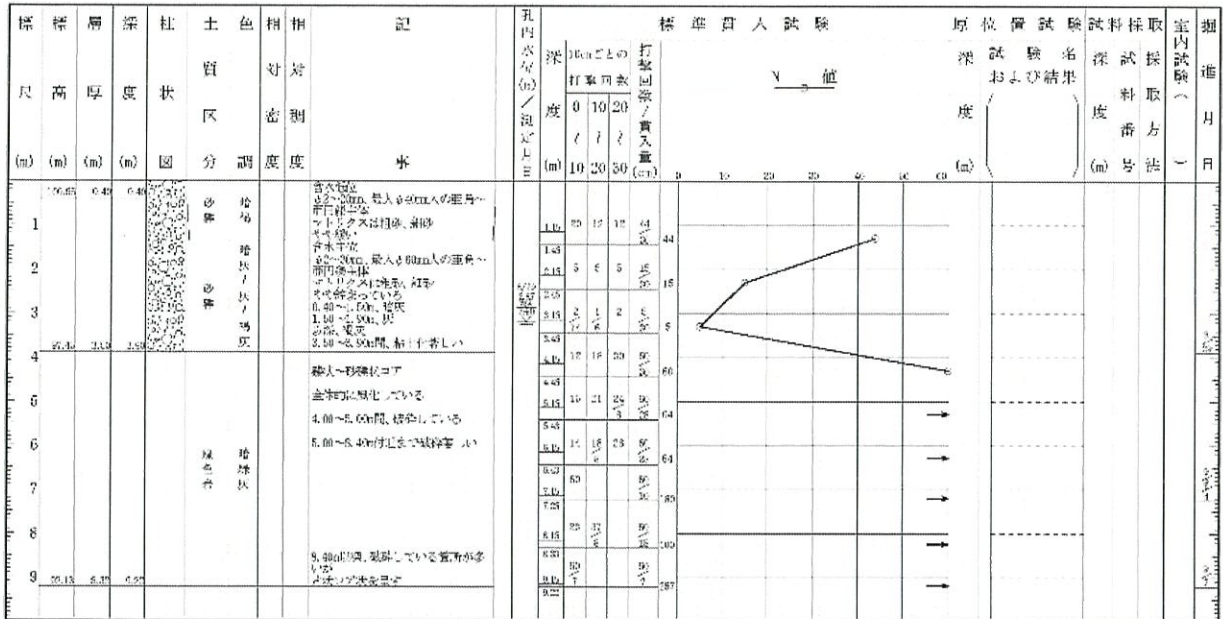


図 1.5 BRP-4 孔のボーリング柱状図及びコア写真

### 3. 設計条件

#### 1) 地域・地盤特性

##### (1) 地域別補正係数

区分	地域別補正係数	備考
(1)A地域	1.00	静岡県
(2)B地域	0.85	
(3)C地域	0.70	
(4)C地域	0.70	

##### (2) 地盤別補正係数

地盤の特性値 (sec)	地盤種別	地盤別補正係数
$T_G < 0.2$	I種地盤	0.8
$0.2 \leq T_G < 0.6$	II種地盤	1.0
$0.6 \leq T_G$	III種地盤	1.2

基礎底面はN値 50以上の層とする。

#### 2) 地質評価

当該地は、緑色岩主体の硬岩分布域である。建築物の設置において、N値が 50 以上の地点を 5 未条確保できる深度としては下表のとおりである。

表 1.1 当該地質調査における N 値 50 以上の深度

	被覆層 (層厚) ( $N < 50$ )	$N \geq 50$		N 値の範囲	平均 N 値
		深度 (m)	岩種		
建築物	BRP-1 沖積層 (3.85m)	3.85～	緑色岩	55～360	507
	BRP-2 沖積層 (4.15m)	4.15～	緑色岩	180～1800	665
	BRP-3 盛土 (3.90m) + 沖積層 (2.25m) + 強風化緑色岩 (1.85m)	8.00～	緑色岩	50～450	227
	BRP-4 沖積層 (3.90m)	3.90～	緑色岩	60～257	121

#### 3) 地質図

次項以降に地質平面図、地質断面図を示す。

